

今号の内容

- 社会党批判(10.24をめぐって)ポーランド／三里塚……2面
- 10.31狭山中央闘争へ／報告—パレスチナ、日韓……3面
- 核・原発問題とわれわれの態度(下)佐野雅之……4面
- 階級的労働運動の再生に向けて(連載1)／北炭夕張他……5面
- 第四インター批判(上)……6面

1982年
10月20日
第24号
(通巻71号)
6頁 200円

赫 旗

共産主義者同盟中央機関紙

発行所 赤路社

編集・発行人 北沢 晋
東京都大田区大森北1-13-11
電話 03(766)4729
郵便振替 東京7-86947
関西赤路社 大阪市福島区大開
1-19-13副島ビル
電話 06(462)7030

毎月10日、25日発行
1980年2月28日
第3種郵便物認可
《定期購読料》
1部・22回
手渡し — 3000円
開封郵送 — 3500円
密封郵送 — 4000円

鈴木退陣-深まる政府危機



二期阻止・廃港へ新たな攻勢を宣言した10.11三里塚闘争(報告2面)

10・24へ革命的隊伍を

昨秋、西独、仏、英国そして今年五月日本、ニューヨーク百万人集会と空前の高揚を見せてきた反核・反戦運動は、いま重大な再編期を迎えようとしている。西ドイツでは、経済危機の深刻化の中でシュミット社民党政権が崩壊した。フランスではミッテランの原案推進によって、高揚してきた反核運動はその政治方向が問われている。わが国では、鈴木退陣—自民党政権の危機の激化の中で、十二・四大阪反核集会が社共分裂の事態として進行しつつある。またアメリカでは、失業率が10%を越す中で十一月大統領選挙を迎え、他方で九月ウィスコンシン州の核凍結—フリージング決議に続き、カリフォルニア州等十

反安保・反核・反原発10・21国際反戦デー 京都集会
10月21日(木)午後6時〜鴨川三条河原 10・21-24集会実行委
10・24反核・反侵略・反安保 大阪行動前段集会(仮称)
10月24日(日)午前9時〜中之島野外音楽堂 御堂筋—関西電力へのデモの後会場へ

10・30シンポジウム福岡

10月30日(土)午後3時〜8時 福岡市民会館国際会議室 シンポジウム企画委員会主催
連絡先・蒼生社社付 092-651-2257

合流し、連合し、敵を撃つ！

《パネラーとテーマ》
(50音順)
■いいだもも(季刊「クライシス」編集長)＝現代におけるマルクス主義の再生
■生田あい(共産主義者同盟議長「赫旗」)＝今なぜ共産主義者の統一協議会なのか
■樋口篤三(労働者党議長「革命の炎」)＝日本革命・労働運動・党
■横山好夫(季刊「労働運動」編集長)＝労働者にとって党とは何か

今こそ社共に代る革命党を

労働者階級・人民の實力で自民党政権を打倒せよ。鈴木退陣、深まる自民政府の危機こそ、激動を開始した日本階級闘争の現局面をめぐるものである。この時、日本労働者階級・人民、動生活破壊をうら崩れ、政治的進歩を鮮明にしている。大平を継ぎ、自民体制のもとに登場した鈴木自民政府は、その当初から資本主義の危機的状況のなかで、日韓関係のきしみ、日

総選挙を前にした、鈴木退陣の危機は、一体何をめしめ、革命の準備を、廣く広げに整えているのか。この政治を、強調してきた鈴木退陣は、八三年八月にかけた階級闘争の政治的進歩を鮮明にしている。大平を継ぎ、自民体制のもとに登場した鈴木自民政府は、その当初から資本主義の危機的状況のなかで、日韓関係のきしみ、日

を、行財政改革におき、赤字国債の八三年度解消を課題としてきた。だが、その政策的行きづまりは誰の目にも明らかとなり、大平の継ぎ、自民体制の危機的状況のなかで、日韓関係のきしみ、日

米ノ核・世界大戦の危険を阻止し、それを取り除く道は、帝國主義をこの地球上から掃蕩する階級闘争しかない。この事実をわれわれは何れも何れも強調する。わが国で、六月国連総会での鈴木首相の演説後、事態はこう進展したのだろうか。八月、日米安保協定を再協議に続き、九月三十日から伊藤・ワインバーガー軍事首脳会談では、米核戦略「レーガン世界戦争政策」を前提とし、中東情勢を見据えた一千万リ・シーレン防衛、更に米空軍F16核攻撃機の三派基地配備が合意された。また日米軍事技術交流という名による武器輸出が、そして十一月には山根三の日本陸軍実動演習が、八三年には米帝の核巡視ミサイル・トマホークの極東配備が進行しようとしている。更に注目しなければならないことは、こうした日米安保体制の裏面、反核運動の右翼再編を許さず、反行軍と反安保・反侵略・反改憲の闘いを結合させ、自民党政権打倒へ進撃しよう。鈴木退陣—政府危機を、八十年代日本階級闘争の爆発の号砲とするのである。

労働者・人民の實力闘争で自民党政権を打倒せよ！

総選挙を前にした、鈴木退陣の危機は、一体何をめしめ、革命の準備を、廣く広げに整えているのか。この政治を、強調してきた鈴木退陣は、八三年八月にかけた階級闘争の政治的進歩を鮮明にしている。大平を継ぎ、自民体制のもとに登場した鈴木自民政府は、その当初から資本主義の危機的状況のなかで、日韓関係のきしみ、日

米ノ核・世界大戦の危険を阻止し、それを取り除く道は、帝國主義をこの地球上から掃蕩する階級闘争しかない。この事実をわれわれは何れも何れも強調する。わが国で、六月国連総会での鈴木首相の演説後、事態はこう進展したのだろうか。八月、日米安保協定を再協議に続き、九月三十日から伊藤・ワインバーガー軍事首脳会談では、米核戦略「レーガン世界戦争政策」を前提とし、中東情勢を見据えた一千万リ・シーレン防衛、更に米空軍F16核攻撃機の三派基地配備が合意された。また日米軍事技術交流という名による武器輸出が、そして十一月には山根三の日本陸軍実動演習が、八三年には米帝の核巡視ミサイル・トマホークの極東配備が進行しようとしている。更に注目しなければならないことは、こうした日米安保体制の裏面、反核運動の右翼再編を許さず、反行軍と反安保・反侵略・反改憲の闘いを結合させ、自民党政権打倒へ進撃しよう。鈴木退陣—政府危機を、八十年代日本階級闘争の爆発の号砲とするのである。

10・21 反戦反核反安保 11月人勧ゼネストへ

る自民政府の危機がある。

米ノ核・世界大戦の危険を阻止し、それを取り除く道は、帝國主義をこの地球上から掃蕩する階級闘争しかない。この事実をわれわれは何れも何れも強調する。わが国で、六月国連総会での鈴木首相の演説後、事態はこう進展したのだろうか。八月、日米安保協定を再協議に続き、九月三十日から伊藤・ワインバーガー軍事首脳会談では、米核戦略「レーガン世界戦争政策」を前提とし、中東情勢を見据えた一千万リ・シーレン防衛、更に米空軍F16核攻撃機の三派基地配備が合意された。また日米軍事技術交流という名による武器輸出が、そして十一月には山根三の日本陸軍実動演習が、八三年には米帝の核巡視ミサイル・トマホークの極東配備が進行しようとしている。更に注目しなければならないことは、こうした日米安保体制の裏面、反核運動の右翼再編を許さず、反行軍と反安保・反侵略・反改憲の闘いを結合させ、自民党政権打倒へ進撃しよう。鈴木退陣—政府危機を、八十年代日本階級闘争の爆発の号砲とするのである。

10.31寺尾差別反動判決^{8力}糾弾

全国から午後一時 明治公園へ！

狭山闘争は部落解放運動のカナメ

八十年代に入り、日帝は米帝の指揮の下、対ノ、対朝鮮侵略、反革命戦争への準備をいそいでいる。これに対して、労働者人民の闘いも、春の三・二六広島集会、五・三東京集会にみられるように、小ブルジョア的、反戦平和意識の限界をもつとも、反戦反侵略闘争の大高揚をきり拓いている。

狭山再審闘争と部落解放運動をめぐる情勢も、戦争と革命をついて、

日帝と鈴木政府は「同和対策の根本的転換をはかつてきた。即ち六十年代の高度経済成長と階級闘争の相対的安定」を基礎とした同和対策第一「特措法」のもとでの「同和」対策から、部落解放運動の右翼的再編―帝國主義戦争への部落大衆の動員に向けた転換である。

そして本年三月末には、「特措法」一打ち切り―新法「地域改善対策特別措置法」を成立させ、部落解放を国の責務であると認めた同和対策第一「特措法」を投了すた。加えて日帝と自民党政府・官僚ともに戦闘的部落大衆への弾圧を強化し、部落解放運動に対する利権屋、暴力団の介入・攻撃をあおると同時に、同和会や日共―全解連をはじめとした右翼融和主義の育成に力をつけているのである。

こうした敵の攻撃の中にあつて、狭山闘争の発展と勝利は、部落解放運動の大衆の実力闘争としての発展とその完全勝利の兆きとなるための当面のメルクマツキになつてゐる。まさに狭山再審闘争は、「石川一人の命は、三三三万きようだいの命」万人は一人のために」として、部落解放運動の最も重要な位置をしめていゝのである。

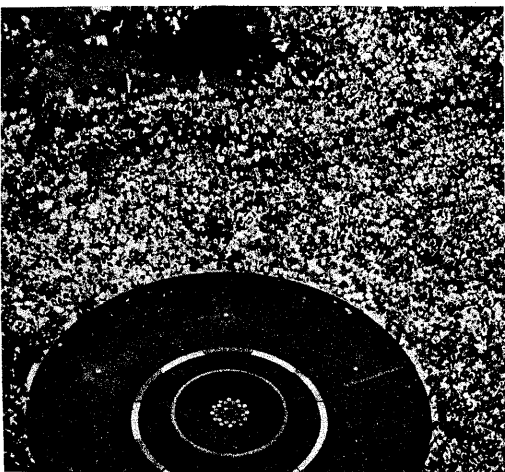
小名木証言と寺尾判決

(公園)

狹山差別裁判糾弾闘争は、六四年の浦和地裁内田裁判長の差別反動「死刑」判決以来、七十年の狹山差別事件の発生、六代を通じて、若干の干渉を見つ糾弾闘争の頂点として發展してきた。

これに対して日帝とアルジョ

一の内田判決は、「殺害」の実認定を以下に行った。



再審闘争に勝利しよう(74年9.26日比谷公園)

これに対して日帝とブルジョア国家権力は、七四年十月二日の東京高裁寺尾裁判長による差別反動「有罪」判決、七七年八月九日の最高裁による差別「宣告棄却」として、狭小共同闘争の發展を恐れ、何かなんでも石川氏への差別反動判決を維持し、部落差別をあり、部落大衆と労働者人民との団結を破壊せんとした。

かかる攻撃の集中的あらわれとして、八二年二月七日の東京高裁四ツ谷裁判長の再審棄却攻撃と八一年三月二五日の東京高裁関根裁判長の異議中立棄却攻

「政治犯」の

在日韓国人
「政治犯」の
生命を**守り**
釈放実現を

署名運動
11・22集会へ結集しよう

9.29東京

機破局に向かっている。今こそ、金大中闘争いらいの一定の停滞を脱し、日韓・日朝連帯闘争の強化・発展が求められている。とりわけ、弾圧強化をはね返し、金大中氏、在日韓国人「政治犯」をはじめすべての「政治犯」の生命を守り、釈放を要

九月二九日、東京・豊島区民センターにおいて「在日韓国人政治犯の生命を守り釈放を實現

抗告審・再審闘争勝利へ

一日の午後、時前から四時半頃まで農作業をしていた。また小名木氏と犯行現場までは、約二千メートルから三メートルであり、その上、桑畑は桑株から新芽が十センチほど伸びた状態であつて、非常に見通しがよかつたといふことである。

ところが小名木氏は、人影どころか悲鳴すら全く聞いていないのである。この石川氏の無実を示す新事実は、当時、小名木氏が検査局に証言しており、今回の証証開示によつて明らかにされたのである。

それ故われわれは、この小名木証言を武器に、狭小差別裁判の差別性を明かにし、石川氏の無実を訴え、この十・三二寺尾差別反動「有罪判決八ヵ年糾弾闘争の大衆の高揚をつくり出し特別抗告審判階の攻勢的局面を切り拓いていかねばならないのである。

十月末に狹小井護闘は、小名木証言に関する補充書を最高裁へ提出する予定である。十三一闘争を分岐点として特別抗告審陪席の狹小井護闘争は、再審開始・事実調べ、棄却かの厳しい余断を許さぬ局面へ突入するのである。われわれは、十三一闘争の庄倒の高揚をもつて、この局面を攻勢的に切り拓いていかねばならないだろう。

かかる情勢にあつて、わが同盟の狹小井護闘争の方針は何か。方針の第一は、小名木証言の新作映画「狹小事件・十八年目の新証言」悲鳴・人影はなかつた」の上映運動を通じて、小名木証言、日付問題をはじめとした全ての新証拠の事実調べを最高裁に強制し、再審開始を勝ちとつていくことである。第二は、第一に運動させつて、石川氏に無罪、狹小事件・寺尾・有罪判決をはじめとした狹小裁判の差別性を明確にし、大衆の実力闘争として狹小共同闘争を發展させていくことである。そして第三は、狹小井護闘争と奨学金「貸与」化攻撃にみられる、新法による「同和行政の後退・融和攻撃に対する闘いと結合していくことである。

以上の三つの方針の物質化を闘いと、更なる狹小井護闘争の全人民的發展を勝ちとつていくためのわが同盟の任務は何か。任務の第一は、十三一闘争と十二・四反戦反核大坂行動と結合していくこと。第二は、天皇元首化・改憲策動を頂点とし諸反動に対する闘いと結合していくこと。第三は、八三政改

治決戦の中心的闘いの一つである右翼労働統一粉砕の闘いが、土月全民労協結成阻止闘争として重要な局面を迎える中で「闘う労組連・闘う行動綱領」の具体的課題とめざし、狭山再審闘争との結合をめざし、階級的戦闘的労働組合運動再生に魂をふきこんでいくことである。

こうした三つの方針、三つの任務をかかげて、われわれは日帝と鈴木政府の八十年代「同和」対策と対決し、鈴木自民党政府打倒へと歩み登っていく。

そしてこの過程、闘いのルンボの中から、今日の部落差別がブルジョア階級独裁と資本主義に最も深い基礎があり、労働者に階級的賃金奴隷制からの解放は部落解放運動と固く結びつくことにははありえないという政治的移転を労働者人民の中に広め、根づかせ、社会主義と部落完全解放をめざす労働水の同盟を形成していく必要はないのか。

Yes.

パレスチナ人
大虐殺糾弾／
緊急抗議集会

更に職場・地域から糾弾の声上げよ

余団体による実行委員会の主催で開かれた。

集会には、緊急の呼びかけにもかわらず約百名の労働者、市民、学生、宗教者などが結集した。

集会は、まず最初に関西パレ・スチナ人民と連帯する会代表の

村山氏から主権者を代表して挨拶が行なわれ、基調に移っていた。

基調は、イスラエルによる子供、女性、老人を含む凄惨な虐殺に対して満身の怒りをこめて糾弾するとともに、今回の虐殺がすべてのパレスチナ人のレバ

ノンからの追放を狙ったイスラエル軍の直接関与の下に行なわれた計画的なものであること、またアメリカの本質的責任などが明確にしめされ、全参加者が弾劾の意志を確認した。そして何よりも、日本人がパレスチナ人民と連帯した闘いを組み

イスラエルの国家テロによるものであることなどを明らかにした。日本人民への支援をよびかけられた。

さらにパレスチナ連絡会議の事務局代表の小林氏、中東に平和を求める市民会議の事務局長である菅生氏、三多摩パレスチ

またアピールでは、A.A.人民連帯日本委員会大阪府本部の堀江氏、十一・二三日韓国人留學生青年不當逮捕者を救援する会の桑原氏、パレスチナ救援委員会、社会タイムスなどから発言がなされた。

そして最後に、討議を受け集

を受けとめ、日米安保体制打破の闘いと結びつけ闘わねばならない。十二・四大阪反核行動はその一つの試練場でもあることを全国の労働者に訴えておきたい。(B通信員)

「訴訟」への支援と勝利をかちとること。徐俊植氏は刑期満了にもかかわらず七八年五月「保釈監護処分」を受け、ひき続き投獄されている。韓国当局は今年五月二度目の更新を行った。非転向を貫くかぎり永久投獄しようというのだ。徐氏はこれに

処遇改善。⑥「日政治犯」の元在留韓人の回復と家族への再入国許可証の発給。――これは救援運動にとつて同時に在日韓国・朝鮮人の権利にとつて重要である。これらの課題は「政治犯」の生命と人権を守る上で、一つとしてゆるがせにできないことを示している。

れまで「処刑」という事態はかろ
うじて阻止されてきたが、弾圧
は日々厳しくなっている。職場
・地域で救援の声をあげ続ける
ことが大切だ。積極的な取組み
を訴えたい。救援署名運動と十
一・二三集会への結集を、

(Y通信員)

反戦反安保闘争の前進に向けて

核・原発問題とわれわれの態度 (下)

佐野 雅之

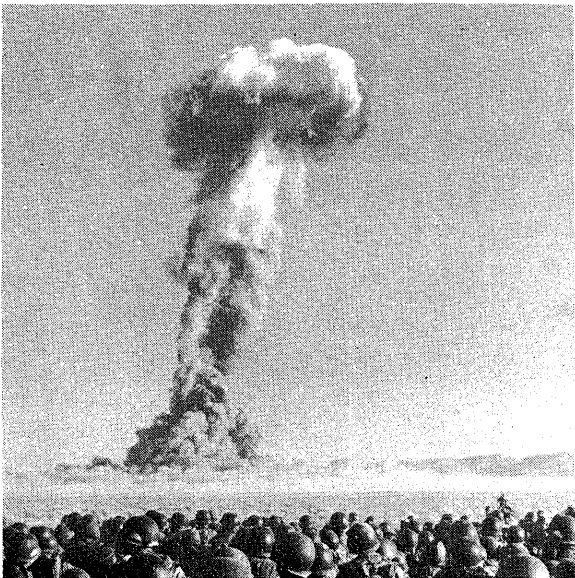
原発は科学技術の進歩か

いま労働者階級・人民は、軍需産業による利潤追求のために社会全体を「実験室」として原発推進の犠牲を強いられている。この核・原発問題が、軍需産業・独占資本にとっての「利益」があることは、明らかになっている。しかし労働者階級が社会の主人公になつたときに果たして「安全」で、かつ有効なものとて使えるのかどうかを検討する必要がある。

原発は石油や石炭を燃焼させ、蒸気でタービンを回して発電するという点で石油、石炭による発電方法と原理的には変わりはない。ただ蒸気発生させる熱源が異なるにすぎない。原発は核分裂を人為的に作り出し、その熱量によって蒸気発生させているのである。他の発電方法と異なっているのは、この核分裂に

よる廃棄物としてのプルトニウムが生産されるのである。生産物を根本的に破壊する危険性をもった物質なのである。今日の原発推進は、石油の燃焼による発電よりは核分裂による発電の方が経済的「効率」がよいということと推進され、生態系の破壊の危険性については一切捨象されているのである。これが科学技術の「進歩」としてブルジョア階級によって宣伝されている。

原発は科学技術の進歩であるという無前提に受け入れ、それが帝国主義の下で、つまり独占資本の利益の下に推進されていることが問題である。批判する勢力が存在している。例えば日本共産党、帝国主義の下で民主主義的管理・運営されれば、原発については原子力開発の平和利用なので賛成であると表明して



安保の核武装—軍事強国化への道を断て

この二つの点から検討する必要がある。第一には科学技術について、第二には生産力の発展という点についてである。まず第一の問題からすれば、原発の技術開発上の問題点をふりかき、今日の技術の発展が社会の進歩であるという前提にたっているのである。つまり科学技術の発展が、どのような生産関係においても生産力の発展を促すものであるとして、ブルジョア科学技術そのものが一個のイデオロギーであることを指摘している。

これは社会主義生産関係のもとで、科学技術そのものの根本的変革を問題にせず、資本主義生産関係の下での科学技術が、そのまゝ生産力の発展の主要な担い手になるという考えに陥っている。科学技術の体系もまたイデオロギーであり、下部構造からまったく独立しているような外見上の性格を持ち、一切の関係から独立した観念的所産のように見えるのは、物質的労働と精神的労働との分離、社会における分業によって生じているからである。

それは、私的所有の階級社会を基礎としているのである。だからイデオロギーの一般性格という虚偽性が、支配階級によって被支配階級に押しつけられることに幻惑されているのである。このイデオロギーの一般性格の虚偽性はいかに打ち破られるのか。それは、生産の社会化によって生み出された革命的階級によって、私的所有の階級社会—資本主義社会を打倒することによって始めて解決の土台が形成されるものである。

だから科学技術に「中立性」があるとするのは、イデオロギーの一般性格の虚偽性に取り込まれていることになる。社会党や共産党の主張は、その典型をあらわしている。かつてのソ連が、資本主義と社会主義の「経済的競争」を打ち出し「進んだ生産関係と遅れた生産力の矛盾」という形式に行きついたのは、唯生産力主義の根本的問題とともに、従来の科学技術の根本的変革を求め、その無批判的受容こそがまずきの石となっていたのである。

現在の中国が「近代化」の下に、かつてのソ連と同じ道を歩もうとしている根拠もここにあるのだ。今日原発問題とつながって、大きな問題であるのが原子爆弾・核兵器の問題である。核兵器は、広島や長崎の惨禍をみるまでもなく、人類の生存そのものを脅かしている。

現在、核兵器は原爆から水爆へと巨大化するともに、他方では、戦術核、戦術核へと細分化し、新たに中性子爆弾の実用化の着手にすすんでいる。こうして、戦略核によって米が対峙していた以上に、運搬手段ミサイルの「発達」と結びつき、従来より核戦争の危険性が増大している。こうした米ソを軸とした核競争への衝動は、戦後帝国主義世界体制の解体、すなわち民族解放闘争の発展、米帝の世界覇権の地位からの後退、それに分け入ったソ連社会主義の世界的支配・分割のための登場という要因によっている。

同時に、過剰生産恐慌にみられる資本主義の矛盾の増大等々によって、この世界再分割・支配に向けた帝国主義戦争の要素が強まっているのである。これまでに米ソを中心として、二回以上の核実験が行なわれ、米は三万個、ソ連は一万六千個以上の核兵器を保有し、英・仏・中を含めれば、莫大な核兵器が配備されている。米帝は「核超大国の利益は、互に戦うことなく、恐怖の核均衡を安定させることである」と、その安定度を核兵器の数が少ないほど高いという核戦略に立ち、また、キューバ危機以降

技術に「中立性」はない

「中立性」はない

「中立性」はない

「中立性」はない

「中立性」はない

「中立性」はない

「中立性」はない

原発は生産力の「発展」ではない

「発展」ではない

「発展」ではない

「発展」ではない

「発展」ではない

「発展」ではない

「発展」ではない

核・原発と

核・原発と

核・原発と

核・原発と

核・原発と

核・原発と

核・原発と

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

社会主義は共存しない

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

核兵器全面廃止の道

【連載①】

のた
めに

闘いへ総力をあけて闘わん！
(E通信員)

